

▼イズカーゴ点滴静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】パピナフスプ アルファ (遺伝子組換え) Pabinafusp Alfa (Genetical Recombination) 【分類】ムコ多糖症II型 (ハンター症候群) 治療剤

【単位】▼10mg/V

【常用量】2mg/kg, 週1回

【用法】点滴静注

注射用水2.4mLで溶解し、5mg/mLの溶液とし、必要量を採取して生食で希釈して100mLとする

0.2μmのインラインフィルターを通す

投与速度8mL/min, 最大33mL/hr

【透析患者への投与方法】

【保存期CKD患者への投与方法】

【特徴】先天性代謝異常症ライソゾーム病の1つであるムコ多糖症II型 (MPS-II:ハンター症候群)の酵素補充療法に適用。中枢神経系症状の改善又は進行の抑制を目的に選択される。ヒト化抗トランスフェリン受容体抗体とヒトイズロン酸2-スルファターゼ (hIDS)の融合タンパク質として作成されており、マンノース-6-リン酸受容体およびトランスフェリン受容体に結合して細胞内に取り込まれ、ライソゾームへ移動する cross correction を利用して補充酵素が取り込まれる。BBBではトランスフェリン受容体を介した輸送機構を利用して脳内に移行し、ムコ多糖を分解する。イデュルスルファーゼ (エラプレース)は中枢移行しないが、本剤はBBBを通過するため、中枢神経系症状の改善も期待できる。

【主な副作用・毒性】アナフィラキシー, infusion reaction, 皮膚症状, 発熱, 悪寒

【安全性に関する情報】

【F】

【tmax】

【代謝】

【排泄】

【t1/2】

【蛋白結合率】

【Vd】

【MW】

【透析性】

【OW係数】

【肝障害患者への投与方法】

【小児CKD患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【備考】脳脊髄液リザーバー留置によってはイデュルスルファーゼベータ (ヒュンタラーゼ脳室内注射液)が使用できる。

【更新日】20230615

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。